４．国際交流活動

4.1. 国際海事大学連合

国際海事大学連合（IAMU : International Association of Maritime Universities）は，1999（平成 11）年 11 月，神戸商船大学（現 神戸大学海事科学研究科）及びイスタンブール工科大学海事学部並びに日本財団が発起人となり，海事教育に携わる２年制修士課程以上の課程を有する世界の海事系大学の連合組織として発起機関を含む７大学・１機関が参加して設立され，2012（平成 24）年度末現在，56 大学，1 機関が加盟する組織に成長した。IAMU は，海事教育研究の世界的な水準向上及び海上交通の安全確保並びに海洋環境の保全のための調査・研究を活性化し，国際海事社会の発展に貢献している。神戸大学は，IAMU の発起大学のひとつとして，同組織の運営に継続的に参画し，毎年開催される総会及び学術講演会並びに学生参加プログラム（IAMUS）に参加している。IAMU の活動組織は, 図 4-1 の機構図が示すように, 議長 (Chair) を含む運営会議 (IEB : International Executive Board) を協議組織として, 実行委員会 (Standing Committees) が組織の運営にあたっている。海事科学研究科からは，平成 20 年度から平成 23 年度までの４年間研究科代表（研究科長）が IEB メンバーとして参加して IAMU の運営において主導的な役割を果たすとともに，財務委員会委員長及びアジア・パシフィック地域代表として，実行委員会にも適宜委員を参画させ，組織活動に貢献した。

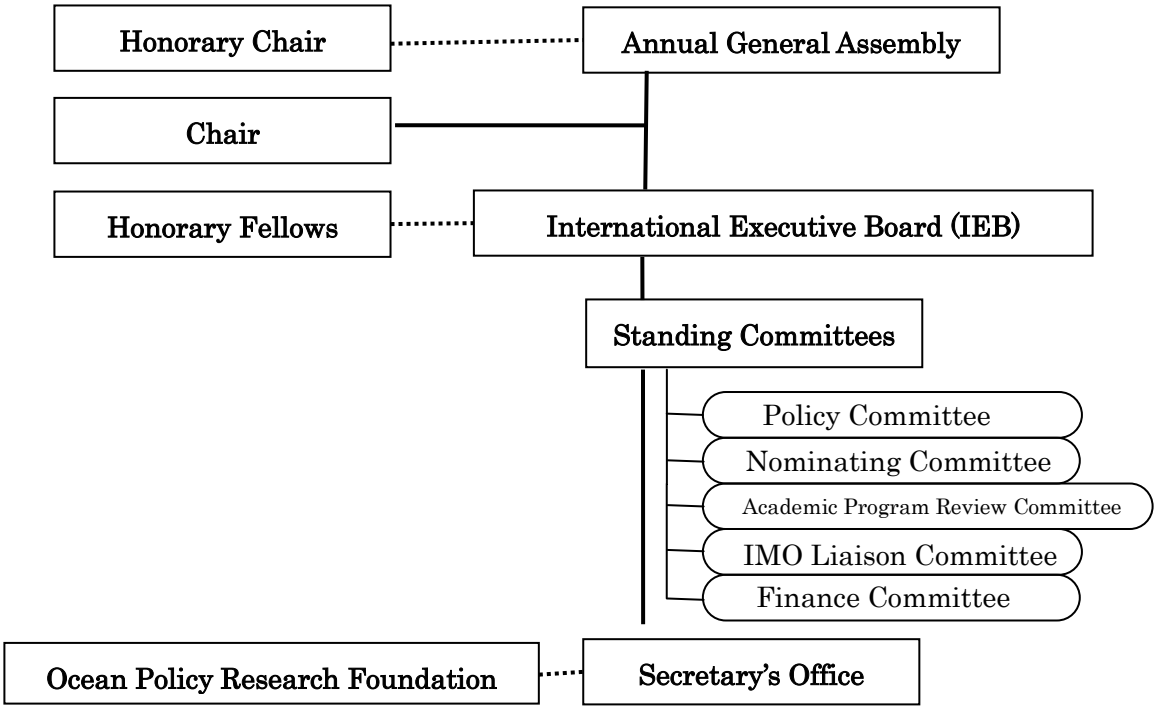

図 4-1.　IAMU 組織構成

年次総会（AGA：Annual General Assembly）

IAMU の年次総会は，全加盟大学・機関の代表者が集い，組織の運営に関する決議と学術的な情報交換を行うため，毎年開催されている。第２期中期計画期間中の開催実績を表 4-１に示す。開催時期及び場所によって参加者数は変動するが，年１回の議決を行うこともあり，海事科学研究科では毎年複数名派遣している。

表 4-1. IAMU 年次総会 開催実績

年度	回・日程	開催場所	出席者	
			総 数	神戸大
2010(H22)	11th AGA Oct.15th-18th	Korea Maritime University, Busan, KOREA	122	6
2011(H23)	12th AGA June 12th-14th	Gdynia Maritime University, Gdynia, POLAND	109	4
2012(H24)	13th AGA Oct. 15th-17th	Fisheries and Marine Institute of Memorial University of Newfoundland, Newfoundland, CANADA	100	2

また， IAMU が掲げる４つの目標，すなわち

１．学術的かつ実践的な手法に基づく海事教育の発展に貢献する機会を提供すること

２．海事産業のすべての分野における効果的な安全マネジメントの発展に貢献すること

３．海事技術・知識を次世代へ引き継ぐための適切かつ効果的システムを開発すること

４．会員が提供する研究成果や学術論文を海事関係機関へ広報すること

を達成するために，活動に取り組む「年間統一テーマ」を 2004（平成 16）年から掲げ，会員大学が共同で調査研究活動を行うこととなった。過去３回の年間統一テーマは，表 4-2 に示すとおりである。

表 4-2. IAMU 年間統一テーマ一覧

年度	統一テーマ
2010(H22)	Technical Cooperation in Maritime Education and Training
2011(H23)	Green Ships, Eco Shippng, Clean Seas
2012(H24)	Expanding Frontiers - Challenges and Opportunities in Maritime Education and Training－

実行委員会（Standing Committees）

IAMU の具体的な作業は，次に示す 5 つの実行委員会が分担し，これらの実行委員会と事務局（Secretary Office）が実質的な運営活動にあたっている。

- Nominating Committee （加盟審査委員会）
- Policy Committee （企画運営委員会）
- Academic Program Review Committee （学術活動委員会）
- Finance Committee （財務委員会）
- IMO Liaison Committee （IMO 連絡調整委員会）

神戸大学からは，各委員会に適宜委員を派遣し，組織活動に貢献してきた。平成 21 年度～平成 24 年度には神戸大学から研究科長が財務委員会委員長として運営に参画し，IAMU への積極的な貢献を行っている。

研究提案制度（Research Project System）

IAMU は，2003（平成 15）年以降調査・研究プロジェクトの提案を会員から募り，優秀なプロジェクト活動を支援する制度を設けている。この研究提案制度には，毎年多くの応募があり，その中から２～４件が採択される。神戸大学から申請した下記のプロジェクト（約６万ドル）が採択されている。

期間：2010－2011（平成 22 年度～23 年度）

課題名：Research on algorithm of collecting valuable information MET system and Human Resource Database in IAMU Members Universities / Institution

（IAMU 加盟大学･機関の海事教育システムと海事人材データベースに関する調査研究）

※ 神戸大学，オデッサ海事大学（ウクライナ），グディニア海事大学（ポーランド），韓国海洋大学校（韓国），大連海事大学（中国）による共同研究

4.2. 学術交流協定

2013（平成 25）年 3 月現在，海事科学研究科が締結している学術交流協定校は，表 4-3 に示すように 20 校である。このうち 12 校は神戸商船大学当時に締結した協定を神戸大学との統合時に更新したもので，協定締結年月は平成 15 年 10 月となっている。その後，海事科学研究科が中心となり，新たに８校（第１期中期計画６年間で４校，第２期中期計画前半３年間で４校）との協定締結を行い，積極的に国際交流活動の活性化に努めている。

協定校は，海事教育に携わる大学を中心に，アジア，欧州，北米へと展開しているが，近年では高水準の研究指向を強めた学術協定への展開を視野に入れ，活動の領域を広げている。

表4-3.　海事科学研究科が締結している国際交流協定校一覧

協定大学名	国 名	協定年月日
上海海事大学	中国	H15.10.1
韓国海洋大学校	韓国	H15.10.6
大連海事大学	中国	H15.10.1
国立群山大学校	韓国	H15.10.1
世界海事大学	スエーデン	H15.10.1
スラバヤ工科大学	インドネシア	H15.10.1
イスタンブール工科大学	トルコ	H15.10.1
タスマニア大学（旧オーストラリア商船大学）	オーストラリア	H15.10.1
国立台湾海洋大学	台湾	H15.10.1
メイン海事大学	アメリカ	H15.10.1
木浦海洋大学校	韓国	H15.10.1
カリフォルニア海事大学	アメリカ	H15.10.1
カーディフ大学	イギリス	H17.9.1
国立済州大学校	韓国	H16.4.8
中国海洋大学	中国	H18.9.6
フィリピン大学ディリマン校	フィリピン	H17.12.9
国立高雄海洋科技大学	台湾	H22.4.14
上海交通大学 （船舶海洋・建築工程学院，機械・動力工程学院）	中国	H22.5.10
ブラパ大学	タイ	H25.1.15
ストラスブール大学	フランス	H25.3.14

4.3. 教員の国際活動

海事科学研究科の外国人研究者の受入れ，教員の海外渡航の実績の推移を表4-4に示す。教員の海外渡航は，国際会議への参加，共同研究，調査研究など国際活動を反映する指標のひとつであり，平均１人１回を目標にしている。また，外国人研究者の受入は増加傾向にある。

表 4-4. 研究者交流数の推移

年 度	外国人研究者の受入件数	教員の外国出張及び研修渡航件数
2010(H22)	18	99
2011(H23)	15	57
2012(H24)	24	66

4.4. 学生交流活動

4.4.1 留学生の受入れ

本研究科では，教育の国際通用性の向上と世界に広がる学術ネットワークの拡充を目指し，海外からの留学生の受入れを積極的に行っている。表 4-5 に，本研究科における留学生在籍者数の実績を示す。経済状況に依存して変化するが，大学院生を中心に学部生，非正規生を合わせて 50 名～60 名の留学生が恒常的に在籍している。

留学生の募集にあたっては，優れた学生を安定して確保するために，大学院前期課程の入試制度に外国人留学生特別選抜を導入している。また，諸外国の事情に対応できるように，入学時期については，通常の 4 月入学に加えて 10 月入学も可能とし，さらに優秀な学生には早期修了も可能として，留学生にとっての利便性向上に努めている。

表 4-5. 留学生の受け入れ状況の推移

年度	学部	大学院生	研究生	合計
2010(H22)	1	33	21	55
2011(H23)	3	46	11	60
2012(H24)	2	43	4	49

教育システムにおける留学生への対応としては，平成19年度に採択された「アジアにおける海事科学リーダー養成プログラム」を導入し，国費外国人留学生大学推薦（特別枠）を適用した滞在環境の充実と，主に英語で行われる講義群，前期課程と後期課程を合わせた５年間の一貫教育システムの実施を行っている。本プログラムにより，アジアを中心とした優秀な人材の育成と輩出を実現し，修了生が母国における海事科学関連分野でのリーダーとなり，活躍することが期待される。これにより，本研究科を中心とする国際ネットワークの構築・強化が可能となるものと考えられる。

4.4.2 学生交流事業の推進

本研究科では，留学生の受入れとは別に，種々の学生交流事業を推進している。事業は，学術交流協定校学生のキャンパス訪問や学生セミナーの開催などの海外学生の受入れと，本学学生の海外でのシンポジウムへの参加，インターンシップや特別研修の実施などの派遣事業を行っている。

(1) 海事科学に関する東アジア国際学生シンポジウム

第１回目：平成22年10月12日～17日（6日間）

本学が主催して，東アジアの学生が神戸に集い，学生が主体となって行う学術シンポジウムの開催を行った。シンポジウムには，海外から8大学･28名，国内から8大学･22名，合計50名の学生並びに教員の参加があり，それに加えて学内から部分参加の学生，教員（32名）が出席した。シンポジウム参加者の国別内訳を表4-6に示す。本プログラム参加者は，

翌日から開催されたテクノオーシャン2010のポスターセッションにおいても研究成果発表を行うとともに，本プログラムが独自に企画した文化体験プログラム（三菱重工業神戸造船所見学，漁業体験，明石海峡大橋見学）に参加した。

表 4-6. 第１回東アジア学生シンポジウム参加者数一覧

国･地域	学生	教員	小計
韓国：3 大学	8	3	11
中国：2 大学	4	2	6
台湾：2 大学	5	3	8
インドネシア：1 大学	2	1	3
神戸大学	10	4	14
その他（国内）：７大学	8	－	8
合　　計	37	13	50

【海外参加大学】 韓国海洋大学校(3)，木浦海洋大学校(3)，釜山大学(5)，上海交通大学(3)，大連海事大学(3)，台湾海洋大学(3)，高雄海洋科技大学(5)，スラバヤ工科大学(3)

【国内参加大学】神戸大学(10)，東京大学(1)，東京海洋大学(1)，大阪大学(1)，大阪府立大学(2)，徳島大学(1)，広島大学(1)，九州大学(1)

※ （　）内数字は，各校参加者数(教員を含む)

第２回目：平成24年11月20日～23日（４日間）

第２回目のシンポジウムには, 海外･国内の15校から52名の学生, 教員が参加し（表4-7）, 48件の学生研究発表（ポスター発表12件を含む）と10件の教員研究発表が行われ，活発な学術交流ができた。また，学生による文化交流会も開催し，参加者達は異なる文化に触れ，刺激を受けながら楽しいひと時を過した。さらに，交流パーティーでは，学生・教員参加者及び運営側の関係者がほぼ全員出席し，優秀論文授賞式を交流パーティーの途中で行うなど，大変盛況な交流会となった。

今回のシンポジウムでは，学術発表会だけではなく，東アジア諸国からの学生参加者が種々の交流プログラムを通してリーダーシップを発揮し，自主的に国際交流を実践できたことはなによりも大きな収穫であった。また，本シンポジウムが成功裏に開催できたことで，東アジア諸国における協力関係の構築に向けた一歩を更に進めることができたのではないかと考えられる。今後も２年おきに継続して開催する予定である。

表 4-7. 第２回東アジア学生シンポジウム参加者数一覧

国･地域	学生	教員	小計
韓国：3 大学	8	3	11
中国：2 大学	4	2	6
台湾：2 大学	4	2	6
インドネシア：1 大学	2	1	3
神戸大学	11	3	14
その他（国内）：6 大学	11	1	12
合　　計	40	12	52

【海外参加大学】木浦海洋大学校(3)，釜山大学校(5)，群山大学校(3)，上海交通大学(3)，大連海事大学(3)，台湾海洋大学(3)，高雄海洋科技大学(3)，スラバヤ工科大学(3)

【国内参加大学】神戸大学(11)，東京海洋大学(3)，大阪大学(3)，大阪府立大学(1)，九州大学(1)，弓削商船高専（2)，富山高専（2)

※ （　）内数字は，各校参加者数(教員を含む)

(2) 海外学生特別研修

海事セキュリティ管理と実用英語に関する特別研修

学部生を対象に，海外協定校で２週間程度の研修を行うプログラムを実施した。本研修は，カリフォルニア海事大学（米国）において，海事セキュリティ管理と実用英語に関する研修を行うもので，英語による専門教育の受講と異文化環境の生活の中で国際性を磨くことを目的として始められた。

本プログラムは学部３，４回生を対象に２年に１回実施することとし，学生の国際交流への関心度と英語教育に対する意識の向上を図る上で，大きく貢献している。第１回（平成20年3月16日～31日），第２回（平成21年9月13日～28日）に続いて，第３回特別研修を行った。期間は平成23年9月16日～31日の16日間で，参加者は９名（３年生３名，４年生５名，教員１名）。

ロンドン国際青年科学フォーラム（LIYSF）派遣研修

大学院生を対象に，ロンドンで2週間程度の研修を行うプログラムを実施した。本研修は，英国インペリアル工科大学において，最先端で活躍している科学者による講義の聴講と英語によるプレゼンテーション及びディスカッションなどに関する研修を行うものである。平成24年8月16日～8月30日，神戸大学大学院海事科学研究科は，ロンドン国際青年科学フォーラム（LIYSF）に大学院生を派遣した。初回となるこの研修には，２名の博士課程前期課程１年生が参加し，フォーラムでのポスターセッション発表など多くの経験を積み，実りある２週間を過ごした。平成24年12月に帰国報告会が開催され研修成果が報告された。

(3) 国際インターンシップ

大学院生を対象に，約１ヶ月間の国際インターンシップを実施している。国際インターンシップ派遣実績を表4-8に示す。本制度開始当初よりご理解頂いた社団法人日本海事検定協会の協力を得て，シンガポール事務所へ大学院生を派遣して，インターンシップを実施してきた。平成21年度並びに22年度については，隣国のマレーシア，タイでの活動に広げて，インターンシップを実施している。

表4-8 国際インターンシップ派遣実績

年度	派遣先	派遣者数	期間
22	日本海事検定協会 シンガポール事務所	2	平成 22 年 10 月 31 日～11 月 21 日（22 日間）
23	天津華和海事検定有限公司 天津分公司・上海分公司 日本海事検定協会 マレーシア事務所	2	平成 24 年 2 月 3 日～ 2 月 24 日（22 日間）
24	日本海事検定協会 台北事業所	1	平成 24 年 12 月 9 日～12 月 15 日（7 日間）

(4) 国際海事大学連合学生会議

IAMUは海事教育に携わる２年制修士課程以上の課程を有する世界の海事系大学の連合組織であり，毎年開催される年次総会に併催して学生会議（IAMUS）が開催される。神戸大学からは，毎回２～３名の学生を派遣し，海外の海事大学に在学する学生との交流を進めるとともに，学生の国際性向上を図っている。

(5) 英語講習会

学生の英語能力の向上を目指して，TOEIC講習会並びにサテライト講習会を実施した。講習会の開催実績を表4-9に示す。TOEIC講習会は，TOEIC試験の受験を想定して集中講義形式で行われる講習会である。本学では，大学院前期課程の入学試験にTOEICの受験を義務づけているほか, 本学で実施する特別英語研修（カリフォルニア, 米国）の選考にTOEICの得点を重視して行うなどより，TOEIC試験に対する学生の関心を高める工夫を施しており，学生のモチベーションの向上を図っている。また，サテライト講習会は，学外の語学教室から講師を派遣させ，講習費用の一部を大学が援助するなどの支援を与え，学生の利便性と効率性を向上させる取り組みである。

表4-9 英語講習開催実績

TOEIC講習会

開催年月	開催日数	参加者
平成 22 年 9 月	3 日間	45 名
平成 23 年 9 月	3 日間	109 名
平成 24 年 9 月	3 日間	54 名

サテライト英語講習会

開催時期	開催数	参加者
平成 22 年度前期	全 3 クラス	20 名
平成 22 年度後期	1 クラス	3 名
平成 23 年度前期	全 4 クラス	32 名
平成 23 年度後期	1 クラス	6 名
平成 24 年度前期	全 2 クラス	23 名
平成 24 年度後期	開講せず	